



半田プライド+

半田醸芳小学校学校だより
令和5年11月24日発行
No. 12 文責：五十嵐

新たなスタート! 「創立150周年記念式典」

21日には、桑折町長様、議会議長様、町教育長様はじめ多くの来賓の皆様、保護者の皆様のご参列のもと「半田醸芳小学校創立150周年記念式典」を開催しました。150周年式典及び記念事業に際しまして、前年度から企画・準備・運営にご尽力いただいた鈴木委員長はじめ実行委員の皆様にご心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

式典では、鈴木実行委員長、町長、議会議長から温かい励ましのお言葉をいただき、150年の歴史の重さを実感するとともに、新たなスタートへの思いを強くしました。また、児童代表5年武田京介さん、6年菅野咲空さんの発表は、世代を超えたエピソードも満載で半田醸芳小学校の素晴らしさや豊かさに改めて気づかされるとともに、半田っ子の健やかな成長を感じさせてくれる素晴らしい内容でした。

これからも、「地域とともにある学校」の実現に向け、「伝統」「感謝」と「半田プライド」の精神を胸に、子供たちと教職員一丸となって教育活動に取り組んで参ります。今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



【校長あいさつ】

本日、この記念すべき日に、桑折町長 高橋宣博様、桑折町議会議長 原賢志様、桑折町教育委員会教育長 会田智康様をはじめ、多くのご来賓の皆様、そして、保護者の皆様のご臨席を賜り、半田醸芳小学校創立150周年記念式典を開催できますことに、心より感謝申し上げます。

また、本式典の開催まで 様々にご尽力をいただきました 鈴木会長をはじめ実行委員の皆様、そして、多大なるご支援を賜りました歴代 PTA 会長会様に重ねて感謝申し上げます。

さて、先ほど、5年生と6年生の代表児童2名が 150周年に花を添える発表をしてくれました。半田醸芳小学校へ対する純粋な思い そして、愛校心に溢れる素晴らしい発表でした。また、今日まで練習を重ね、懸命に発表する2人の姿を見て、半田醸芳小学校は地域と保護者の方々に支えられ、心身ともに健やかな子供たちがしっかりと成長していることを実感することができました。

本校は、明治6年に9つの村が連合して小学校を開校以降、多くの方々に支えられ、今年度150周年を迎えました。改めて、これまで伝統と歴史をつないでこられた方々に心から感謝申し上げます。

そして、昭和30年、桑折町立半田醸芳小学校と改称以降、これまで本校を巣立っていった卒業生は 3525名を数えます。節目の年にあたり、本校の長い歴史とよき伝統は、保護者の方はもとより、卒業生や地域の方が寄せてくださる愛情の賜物であると実感しております。

ここに一冊の冊子があります。これは、昭和48年、本校創立100周年の際に発行された記念誌です。そこに、当時の6年生が寄せた文章があります。結びの部分だけ紹介いたします。児童の皆さんもしっかり聞いてください。

『ぼくのおじいちゃんに聞いた話では、戦争中は物が不足して、教科書や学用品は数が少なく 配給制度で何一つ自由に買うことができなかったそうです。このように、先輩の人々は、いろいろと苦労して、今の立派な学校にしてくださったのです。ぼくたちはとてもありがたいと感謝いたします。ぼくたちは一生懸命勉強して、先輩の人々に負けないように、わが半田醸芳小学校を益々よい学校にしたいと思います。そして、ぼくたちの後輩達が、この伝統ある半田醸芳小学校を いつまでも守ってくださるようお願いいたします。』

時代背景は現代と大きく異なりますが、これまでの半田醸芳小学校の歴史を正しく認識し、そして今の生活に感謝し、未来への熱い思いが素直な言葉で表現されています。

それから、50年が経過し、今があります。今日の150周年記念式典は、これまでの時代をつないでいただいた皆様に感謝し、心を受け継ぎ、これからの時代をよりよい時代に切り拓いていく誓いを新たにする場であると考えます。私たちはこのような温かく、熱い思いをもった先輩方、保護者の皆様、地域の皆様に支えていただいていることをしっかりと受け止め、半田醸芳小学校の益々の発展に向けて努力していきたいと思ひます。

そして、これまで半田醸芳小学校に関わってこられた皆様が、脈々と紡いでこられた精神・理念である「半田プライド」を引き継いでいきます。そして、それをさらに発展させ 次世代へつなぐため、子供たち・教職員一丸となって取り組んで参ります。時代が移り変わっても「半田プライド」は子供たち、そして、私たちの誇りです。

結びに、子供たち、そして、私たち教職員は 150周年という節目に立ち会えることに大きな喜びを感じております。その喜びを教育活動充実の原動力とし、そして、私たちの心のよりどころである「半田プライド」を胸に、さらなる高みを目指して尽力していくことをお約束し、校長のあいさつといたします。

【児童発表 5年 「ぼくたちの半田醸芳小学校」】

半田醸芳小学校、150周年おめでとうございます。

ぼくは、半田醸芳小学校には、感謝の気持ちでいっぱいです。学校は、いつでもぼくたちを温かくむかえてくれます。「今日はなんだか行きたくないなあ。」と書いていても、学校に行けば、友達や先生がいて、休み時間に遊んだり、算数で難しい問題に挑戦したりしていると、「わあ、なんか楽しいなあ。」と感じてきます。

ぼくは、一年生の時には、先生の話の聞かないときがあり、友達に迷惑をかけてしまったことがありました。それでも、学校はぼくに「来ちゃだめ。」なんて言わずに、優しくしてくれました。だから毎日、学校は楽しかったです。今も、こうしてみんなの前で話ができるのも学校のおかげだし、みんなで勉強やスポーツができるのも遊べるのも、けんかをして仲直りできるのも、学校があるからです。いろいろなことを経験させてくれる学校が大好きです。

ぼくのお父さんも、半田醸芳小学校に通ってました。お父さんに小学校の時の思い出を聞いてみました。お父さんが小学生の時には、プールで魚つりをする学校行事があったそうです。先生たちがプールにふなやこいなどを放りこんで、自分でもってきたつりざおで、つりをしていたそうです。「楽しい行事で、一番の思い出。」とお父さんは言っていました。学校もそのことをきくと覚えているだろうと思ひます。

ぼくのお父さんも、半田醸芳小学校に通ってました。お父さんに小学校の時の思い出を聞いてみました。お父さんが小学生の時には、プールで魚つりをする学校行事があったそうです。先生たちがプールにふなやこいなどを放りこんで、自分でもってきたつりざおで、つりをしていたそうです。「楽しい行事で、一番の思い出。」とお父さんは言っていました。学校もそのことをきくと覚えているだろうと思ひます。

半田醸芳小学校は、150年もぼくのような子どもたちを見つけてきたんだなと考えると、すごいなあと思ひます。「ぼくのこと、みんなのことを守る！」そんなふうに学校が言ってくれているような気がします。ぼくのこの作文が半田醸芳小学校の心にひびいて、いつまでもいつまでも、ぼくたちが大人になっても、おじいちゃんになっても、続いていてもらいたいと思ひます。



【児童発表 6年 150周年を迎えるにあたり】

私たちが通っている半田醸芳小学校は、今年で150歳です。私は、この記念の年に、6年生であることをとてもうれしく、そして、とてもほこらしく思います。その理由は、私の祖父も母もこの半田醸芳小学校に通い、三代も続けて同じ小学校を卒業することになるからです。私は、祖父や母が通っていた頃の様子を聞いてみました。

祖父が六年生の時の半田醸芳小学校は、今から約60年前です。その頃の校舎は、木造建築の校舎だったそうです。秋になると、上級生は、半田山に薪を拾いに行っていたそうです。その頃のストーブは、石炭ストーブで薪を着火剤として自分たちでつけていたそうです。今の私と同じ年齢で、自分たちでストーブをつけていたということにとても驚きました。そして、そのストーブで弁当を温めていたそうです。冬の間は、いつも、温かいお弁当を食べていたそうです。私は、お弁当が温かいという経験がないので、いいなあと思いました。

母の時は、校舎も制服も運動着も今と変わっていないそうです。そして、その頃からマーチングがあったそうです。私在家で練習の話などをすると、母は、「なつかしい。」と言っています。その頃は、金管楽器など、今よりもいろいろな楽器があり、衣装もあったと聞きました。私は、どんな衣装を着て演奏していたのか見てみたいなと思いました。今は、衣装を着ることはないですが、自分が3年生の頃から練習をしてきたマーチングは、いいリズムでみんな德音を合わせると、とてもいい気分になります。

そして、私が半田醸芳小学校の一番気に入っているところは、四季の変化を感じられる自然にあふれていることです。春は、色とりどりの花が咲き、校庭の桜が満開になると学年が進んで、うれしい気持ちでいっぱいになります。夏は、虫の音が響き、太陽からのエネルギーを感じ、元気になります。秋は、山々が色づき、農作物が実り、最も美しい季節になります。冬は、真っ白な雪が木々をすっぽりと被い、冬の花のようにまた違う景色を味わえます。どの季節も素晴らしい魅力があり、私は、この季節の移り変わりがとても大好きです。

学校ができて150年が経ち、校舎が変わったり、先生が変わったり、新しい時代になり、学習の仕方が変わったりしても、この半田山のふもとにある景色は、ずっと変わっていないものだと思います。

私は、これから先、何歳になっても、この美しい自然と共に半田醸芳小学校で楽しく過ごしてきたことを誇りに思って生きていきたいと思っています。



「半田プライドを胸に みんな輝け半田っ子！」